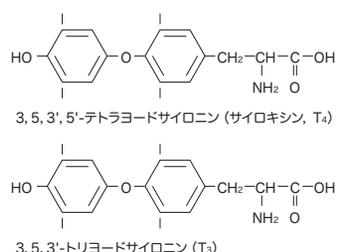
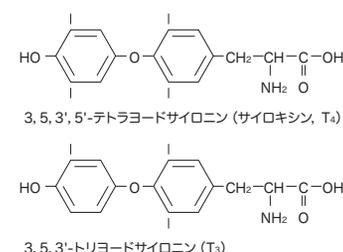


「薬学生・薬剤師のための 疾患別 薬物療法管理マニュアル」 正誤表

ご購入いただきました「薬学生・薬剤師のための 疾患別 薬物療法管理マニュアル」（平成22年4月30日発行）に下記の誤りがありました。お詫びいたしますとともに、訂正くださいますようお願い申し上げます。

(株)じほう
2011.01.12

ページ	行数	誤	正
27	右段, 下から11行目	ガチフロキサシン 73 20	削除
30	上から10行目	③薬物のタンパク質非結合形分率の <u>低下</u>	③薬物のタンパク質非結合形分率の <u>上昇</u>
31	表2-8	③代謝能依存性・タンパク結合感受性薬物	③代謝能依存性・タンパク結合 <u>非</u> 感受性薬物
44	下から10行目	(60,000 <u>万</u> 単位/日)	(60,000 単位/日)
49	上から12行目	1日10,000 <u>万</u> 単位程度	1日10,000 単位程度
104	下から7行目	ドネベシル	ドネベジル
163	下から12行目	…伝導はニューロペプチドの遊里…	…伝導はニューロペプチドの遊離…
172 173	下から9行目より 上から14行目まで	(2) 麦角アルカロイド：エルゴタミン製剤 一般名(商品名) エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン(カフェルゴット)を右記(エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン(クリアミン配合錠A))に差し替え	一般名(商品名) エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン(クリアミン配合錠A) 用法・用量 規格：錠 エルゴタミン酒石酸塩 1mg：無水カフェイン 50mg：イソプロピルアンチピリン 300mgの配合剤 1回1錠を1日2～3回経口投与。頭痛発作の前兆がある場合は、1～2錠を頓用。1週間に最高10錠まで。 服薬指導 ①めまいを生じることがあるので、自動車などの運転は控える。 ②血管収縮作用を増強するおそれがあるので過度の喫煙を避ける。 禁忌 ①末梢血管障害、閉塞性血管障害、狭心症、冠動脈硬化症の患者。 ②コントロール不十分な高血圧症、ショック、側頭動脈炎のある患者。 ③肝または腎機能障害のある患者。 ④肺血症患者。 ⑤妊婦、授乳婦。 ⑥HIV プロテアーゼ阻害剤、マクロライド系抗生物質、アゾール系抗真菌薬、トリプタン製剤、麦角アルカロイドを投与中の患者。 ⑦本剤、麦角アルカロイドまたはピラゾロン系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者。 副作用と処置 中止：皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)、麦角中毒、心筋虚血、心筋梗塞 相互作用 エルゴタミンは主に代謝酵素CYP3A4で代謝されるので、本酵素の阻害作用を有する薬剤との併用に注意する。 体内動態 T _{max} ：2.5hr(エルゴタミン), 1.2hr(無水カフェイン), 0.8hr(イソプロピルアンチピリン) T _{1/2} ：6.5hr(エルゴタミン), 5.0hr(無水カフェイン), 1.9hr(イソプロピルアンチピリン)
209	上から16行目	(イソバ <i>イ</i> ド)	(イソバ <i>イ</i> ド)
216	表4-3	⑦眼科用薬(散瞳薬, <u>緑内障治療薬</u> , 血管収縮薬)	⑦眼科用薬(散瞳薬, 血管収縮薬)
274	下から5行目	クレソニド	<u>シ</u> クレソニド

ページ	行数	誤	正
281	最下行		(本文追加) 乳児喘息発作時のアミノフィリン注射薬に関する注意事項（喘息予防・管理ガイドライン2009） ・大発作や呼吸不全に際し、 β_2 刺激薬やステロイド薬の効果が十分でない場合には、テオフィリン薬に関する十分な知識をもった医師により使用が考慮されることが推奨される。 ・熱性痙攣やてんかんなどの痙攣性疾患がある場合には原則として推奨されない。 ・発熱時の使用は適応の有無を慎重に考慮する。 ・血中濃度10 μ g/mLを目安に設定し、必要に応じて適宜、血中濃度をモニタリングする。必要に応じて15 μ g/mL程度を上限として投与量を調整する。 ・テオフィリンクリアランスは発熱、ウイルス感染、食事内容、併用薬などにより低下し、血中濃度が上昇することがある。
283	下から14行目	オザ <u>ク</u> レル	オザ <u>グ</u> レル
285	上から19行目	オマリ <u>ツ</u> マブ	オマリ <u>ズ</u> マブ
345	上から14行目	シロスタ <u>ブ</u> ール	クロピド <u>グ</u> レル
377	上から11行目	皮膚粘 <u>膜</u> 症候群	皮膚粘 <u>膜</u> 疾患
568	図9-1	 <p>3,5,3',5'-テトラヨードサイロニン (サイロキシニン, T₄)</p> <p>3,5,3'-トリヨードサイロニン (T₃)</p>	 <p>3,5,3',5'-テトラヨードサイロニン (サイロキシニン, T₄)</p> <p>3,5,3'-トリヨードサイロニン (T₃)</p>
599	図9-8 [内因性]	 	 
631	最上行	(アンジオテンシン変換酵素：AGE)	(advanced glycation endproducts：AGE)
1027	図13-18 中段 (地固め・強化療法), Course 1 (C-1) 欄1行目・2行目	<u>CMP</u> 1,000 mg/m ² day 1 <u>AMD</u> 60 mg/m ² cont. day 1	<u>CPM</u> 1,000 mg/m ² day 1 <u>ADM</u> 60 mg/m ² cont. day 1
	同上, Course 3 (C-3) 欄2行目	<u>ADH</u> 60 mg/m ² cont. day 1	<u>ADM</u> 60 mg/m ² cont. day 1
	同上, Course 4 (C-4) 欄4行目	<u>CMP</u> 60 mg/m ² po days 1～4	<u>6-MP</u> 60 mg/m ² po days 1～4
1127	表14-6 「剤形」の項	④ジピリダモール 錠, 散, 注* ₂	④ジピリダモール 錠, 散, 注* ₂
		⑦オザグレル 注, 錠	⑦オザグレル 注, 錠*
	表14-6 枠外		(注釈追加) *：ジピリダモール注, オザグレル錠には血栓症の適応なし
1129	図14-3	ビタミンKエポキシ <u>タ</u> ーゼ	ビタミンKエポキシ <u>ダ</u> ーゼ
1190	上から3・8・9行目	OKT3	ムロモナブ-CD3